

施設見学・体験

千葉大学アカデミック・リンク・センター

講師：千葉大学文学部教授（千葉大学副学長・附属図書館長）竹内比呂也

1 アカデミック・リンク・センターの概要

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、附属図書館、総合メディア基盤センター（現在の統合情報センター）、普遍教育センター（現在の全学教育センター）が協力して立ち上げた、新しい研究開発拠点である。アクティブ・ラーニング・スペース、コンテンツ・ラボ、ティーチング・ハブの3機能を実現し、能動的学習を促進している。建物は、異なるコンセプトを持つ4つの建物、L棟(Learning 黙考する)、I棟(Investigation 研究・発信する)、N棟(Networking 対話する)、K棟(Knowledge 知識が眠る)で構成されている（頭文字を繋げるとLINK）。

2 館内施設

N棟1階プレゼンテーションスペースは図書館入口付近にある発表用空間。教職員や学生などが講師を務めるセミナー「1210あかりんアワー」を定期開催。オープンスペースで、通りがかりの人も自由に参加可。

N棟2階コミュニケーションエリアは、可動式の椅子、机、ホワイトボードを自由に使って話し合いや学習ができる。学習支援デスクに職員、学生スタッフが時間毎におり、分野別学習相談、レファレンスサービスを行っている。

N棟2階授業資料ナビコーナーにはパスファインダーと共に、紹介した図書を置き1冊は貸出用、1冊は館内用としている。

N棟3階グループワークエリアは多数設置されたパソコンを使用しながらグループ学習ができる。PCサポートデスクで技術的な相談ができる。

N棟4階グループ学習室は4室あり、予約制。ガラス張りの見る／見られる空間とすることで学習意欲が刺激される。

L棟2階ブックハウスには、千葉大学教員の研究成果の発信や、教員の寄贈著書、卒業生からの寄贈著書がある。また、「1210

あかりんアワー」で行った「教員が研究の楽しさを語る」シリーズで紹介された本を展示している。バックナンバーはDVDとiPadで館内視聴可能のほか、館内のデジタルサイネージでも上映している。

L棟2階静寂閲覧室はガラス張り閲覧室で、私語や音の出る機器を禁じ静寂を保つ。

I棟2階コンテンツ制作室は、教材の作成や授業課題を行うための設備がある。

3 千葉大学の取り組みと成果

近年の教育では、従来の受動的な学びとは異なる、アクティブラーニング＝課題の発見・解決に向けた主体的・能動的な学びが推進されている。中央教育審議会答申にも大学図書館機能の強化の必要性が盛り込まれた。こうした背景もあり、また、附属図書館本館の耐震工事も契機となり、千葉大学は新しい学習環境の整備としてアカデミック・リンクに取り組んできた。

活発な学習行動・活動を誘発した要因の一つは、多様な学習スタイルに対応する空間である。個人席・グループ席が選べること、机、椅子の可動性により伸縮自在のグループ活動が可能なこと、ホワイトボードの使用により、思考の共有・議論活性化、仕切りとして使用されることで集中力が向上すること。また、他者の学習の様子が見えることが意欲の増加につながっている。

二つめはコンテンツである。「授業資料ナビゲータ」は教養科目を中心に、教員が読ませたい、事前事後学習に役立つ図書やサイトを紹介している。

三つめは人的支援である。図書館員だけでなく、ALSA (Academic Link Student Assistant) と呼ばれる学生アシスタントを雇用し、学習支援を実施している。

これらにより、学生の図書館への満足度は高く、学生の学習時間が延びる傾向、附属図書館滞在時間が長くなる傾向が見られている。



(講義中の竹内講師)